

## 第1回 一宮地区公共施設再編整備基本構想検討委員会 議事録

日 時 令和2年9月8日(火)

午後2時から

場 所 一宮生涯学習会館 1階 集会室

### 1 開会

出席 委員11名、事務局(市長、池田副市長含む)10名

### 2 本策定委員会について

### 3 市長挨拶

### 4 委員長の互選

	委員より推薦があり、浅野委員を委員長とした。
--	------------------------

### 5 副委員長の指名

	委員長より指名があり、宇野委員を副委員長とした。
--	--------------------------

### 6 議事

(1) 豊川市の公共施設マネジメントの取組と一宮地区での公共施設再編の方向性について(資料2, 3)

(2) 本年度(令和2年度)の検討の進め方について(資料4、参考資料1)

事務局	(資料の説明)
委員長	議題の(1)は、豊川市の公共施設マネジメントについての説明でした。一宮地区での公共施設再編についても、市の方針に沿って進めていきたいという説明でしたが、いかがでしょうか。
委員	資料2について、公共施設に係る将来費用予測における、日常修繕費と更新費用はどう分けているのか。日常修繕費というのは一定になると思いますが、年によってばらつきがあるので、どういう計算をされているのか。
事務局	修繕費、更新費については、市の予算上、修繕に関わるものとしては修繕費としており、更新費については、施設の更新等に用いる工事費という違いがあります。 豊川市公共施設中長期保全計画において屋根、外壁等建物の部位ごとに修繕の期間を設定しており、その部位ごとに概算の単価を設定し試算をしています。 日常修繕については、想定している公共施設の築年数(完成年度)が違い、年ごとに施設の数が異なっているため変わってきます。

委員長	修繕と更新というふうに名前がついているのは、予算の枠組みの中での違いということですか。
事務局	そのとおりです。
副委員長	参考資料1について、小坂井の事例がありますが、資料についてもう少し説明をお願いします。
事務局	参考資料1に教育ゾーン、子育てゾーンと示していますが、教育ゾーンについては小坂井中学校、小坂井東小学校、子育てゾーンについては、小坂井保育園、児童クラブがあるところをゾーン分けしました。その上で、小坂井では中学校の体育館を多世代交流ゾーンへ移せないかということで検討を始めています。子育てゾーンについては、小坂井東小学校児童クラブから小坂井東小学校がある教育ゾーンの方へ児童クラブを移せないかという検討を始めています。また、小坂井生涯学習会館等の多世代交流ゾーンを支所庁舎の敷地に持ってくるというイメージです。それぞれの施設をゾーンで分け、それを多世代交流ゾーンとして中心となるエリアに持ってくるということで検討した資料です。
副委員長	いろいろな機能をもっていったって、多世代交流ゾーンということで小坂井庁舎のところに整備したということですね。
委員長	現状の支所機能を維持した形で集約するという理解かと思います。一宮庁舎にどういう機能があり、何人くらいの職員の方がいるのか、またその体制を将来何年くらい維持するのか等、教えてください。
事務局	一宮庁舎の現在の運用の状況ですが、1階の支所部分に現在12人の職員で運用しています。1階の半分と2、3階には上下水道部が入っています。本日は各階の詳細人数を把握しておりませんが、かなりの人数の職員がいます。
委員長	かなりプレゼンスがあるということがわかりました。

### (3) 一宮地区の再編対象施設及び機能の検討について (資料5、参考資料2～5)

事務局	(資料の説明)
委員	支所やコミュニティ施設等の機能集約による公共施設の再編整備を進めたいということかと思います。先ほどの説明にも、利用率が低い等ありました。一宮体育センター、農業者トレーニングセンターは同じような用途です。しかし、行政の仕事は住民サービスなので、著しい住民サービスの低下は避けなければいけないと思います。利用率等を基に複合化を考えることが出来たとしても、過去に合併したことも考えると、住民にとってはサービスの低下になると思います。とても難しい問題であり、少ない回数の会議で決めることができるか疑問に感じます。  健康福祉センターについて、施設の用途転換や廃止を推進すると書いてあります。いかまい館の用途転換や廃止を推進するのですか。
市長	いかまい館については、施設自体が非常に新しいので、その他にももう少し有効利用できないかと思っています。高齢者入浴施設や障害者向けの入浴施設等は今まで通りやっていく予定です。ただ、利用率が低いものですから、もう少し有効利用されるといいかなとは思っています。

委員	<p>高齢者入浴施設については用途転換や廃止を推進するというのですが、この施設と隣の本宮の湯は、旧一宮町が作ったものです。本宮の湯は豊川市にある程度の利益をもたらしていると思います。いかまい館、本宮の湯は交通の便が悪いですが、悪かったら使えるようにする検証を先にすべきだと思います。何回かの会議で進めていくと住民の反感を買う可能性があるのではないかと思います。</p>
市長	<p>高齢者入浴施設いかまい館については、すぐに閉鎖ということは全く考えておりません。ただ、もう少し多用途で使えたらいいなということは考えています。施設の用途転換や廃止を推進するという形にはなっているのですが、少なくとも高齢者入浴施設、障害者用入浴施設については、今のところ、廃止は全く考えていません。</p>
委員	<p>用途転換等、使われていない部分を使うというのは大事ですが、廃止を推進するというような文言はできれば除いてほしいと思います。</p>
委員長	<p>都市計画の学会等でも公共施設の再編の話題が出ていました。先進的な自治体では、都市の集約化と一体的に考えています。公共施設を集約化すると、そのポイントは、強力な拠点になるので、場所をどこにするのかはかなり重要な議論です。豊川市は、都市マス等で、三河一宮駅を拠点としています。拠点というのは、開発等の施策を検討する際の目安になります。これに基づくと、豊川の都市構造を、駅を中心とした拠点の多極ネットワーク型とする場合、三河一宮駅前を中心に考えるのが原則になります。そうではなくて、一宮庁舎の敷地が広いので有効活用するために拠点とするならば、本来は一宮庁舎に拠点を設定していなければおかしくなります。これはかなり本質論です。今は中途半端な状況で、拠点は三河一宮駅で、一宮庁舎のところに公共施設の再編をするのは、今後の他の施策を検討する上で、将来的にズレが出ます。利用者の循環をするという視点もありますが、それは明確な拠点ではなく、結局、移動の負荷等不便も出てくるため、なるべくそのような不一致についても正す重要な機会かなという気がしています。</p>
副委員長	<p>複数の特徴ある施設があって、利用率等現状があります。判断していく上での論点としては、一つは耐震性による安全性の確保という点で、耐震性に不安のある建物を中心に検討をしていくこと。また、前半の議論であったような経済性、コスト面での整理整頓。あと、先ほどの話にもあったように地域拠点の明確化があります。最終的には、将来のまちづくりのビジョンというところからも整理して落ち着いていくと思います。このようなポイントを中心に議論を進めるといいと思います。</p>
委員	<p>参考資料では面積の縮減を図るとありますが、面積の縮減をどのように図るのですか。</p>
市長	<p>面積の縮減というのは、一つ一つの保育園の面積を削るわけではありません。今回大木保育園を新しくしたわけですが、これは非常に面積が広がっています。今、若いお母さん方は、ほとんど車で送迎していますので、音羽地区統合を進めているが、こちらでも用地を広く確保しています。ここでいう面積縮減とは、保育所整備計画の全体である程度民営化等を図ると、市の保育園の保有面積としては縮減されるということです。個々の保育園から見ると今でも職員の駐車場であったり送迎用の用地を取得したりしています。他の園でも敷地面積は広げている方向です。</p>
委員	<p>全体を縮減するという事は、園の統合につながるのではないですか。</p>
市長	<p>民営化というのは、豊川市保育協会等の民間が建設する場合、補助金等で非常に有利になります。子どもの環境を良くして更新していくためには、民間がもし受けてい</p>

	ただけるのであれば、より有効に財源が確保できるというメリットがあります。市直営で整備すると多額の一般財源が必要になります。特に今、小坂井地区等では、民営化に向けて検討しています。今後も建て替えの度に集約化を検討し、一定の面積を広げることがあると思います。それから民営化できるところは民営化していきます。それで、トータルで市の公共施設としての保育園が減っていくということが面積の縮減につながります。
委員	保育園の統合というのは通園の困難を伴います。送迎は大体が車ですが、まだ、祖父祖母が歩いていく例もあります。両親が共働きで、老人に免許の自主返納を進めているのですから、今後益々そうなると思います。一宮西部は一度民営化の話もありましたができなかったという経緯があります。一宮西部と大木保育園が一緒になったことは結構なことだとは思いますが、結構距離があり大変なことだと思います。できれば、7園を6園にしたのだから、これ以上、一宮の保育園の統合は勘弁してほしいというのが本音です。
市長	合併した町のうち一宮町は面積が広いので、面積要件は一定の考慮はしていきます。全体を見る中で、民間活力の活用、諸事情を考慮して統合すべきところは統合していくという考えです。当然、住民のコンセンサスを得て進めていきます。
委員長	資料5が、今回事務局が用意したたたき台ということです。これを見ると、一番上の健康福祉センターはやや外れていますが、それ以外の5つについては比較的近い場所にあります。移動という点での不都合については、集約した後もそれほど変わらないのかなという気はするのですが、この点について特別意見があればいただきたいと思いますがいかがでしょうか。  私も東広島市の安芸乃島町で、同じような庁舎を中心にした複合化をなるべくローコストで進めようとしています。施設が新しくなる利点というのは、施設が最新のものになるので快適であることと、今までバラバラだったときには各々の目的でバラバラの場所に行っていた人が嫌でも一箇所に集まることとなりますので、交流の機会が明らかに増え、拠点化が促進されるという効果は見られます。行政主導ではカフェ等楽しんで時間を過ごすような施設が欠けるので、やや硬いイメージの拠点となるのは残念でしたが、それでもいろんな人が集まり、時間を過ごせるような施設があると非常にいい環境になります。先ほど、面積が削られることで後退したようなイメージがありますが、それを最新のテクノロジーや技術でカバーするようになるため、それほど悪い話ではないのかなあと私は思っています。

#### (4) 住民アンケートの実施について (資料6)

事務局	(資料の説明)
委員	アンケートの問1の年齢が70歳以上で切れているが、高齢化が進み全人口の4分の1が65歳以上なので、70歳以上で切ってしまうのはいかがかと思います。特に公共施設へのアクセスという視点から、車を運転できない人のことも把握するためにもあった方がよいと思うので、ご検討いただければと思います。
事務局	再考させていただきます。
委員長	問5で各施設への交通手段も併せて聞いておくと参考になるかと思います。

事務局	再考させていただきます。
-----	--------------

## 7 その他

事務局	<p>今後の予定としまして、アンケートの発送は本日のご意見を踏まえて準備が整い次第、速やかに発送予定です。次回の12月開催予定の検討委員会で結果を報告したいと考えています。また、新型コロナウイルスの状況を見ながら視察を実施については検討します。</p> <p>今後の検討会の開催方法について、今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点で傍聴を不可として開催しましたが、次回以降は状況に応じて傍聴席を設けることも検討したいと考えています。</p>
委員長	<p>今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、なるべく短くということではほとんどの委員さんから意見を頂いていません。それぞれの委員からご意見ご質問を別途受け付けていただいた方がよいと思います。期限を設定して、直接事務局の方に伝えていただいて、それを踏まえて12月の検討会に臨むほうがよいと思いますので、そのようにご準備お願いできますでしょうか。</p>
事務局	<p>かしこまりました。ご意見・ご質問がございましたら財産管理課へお願いいたします。アンケートに関しては、発送があるので、約2週間後の23日までにはお願いします。その他については、随時受け付けます。</p>

以上